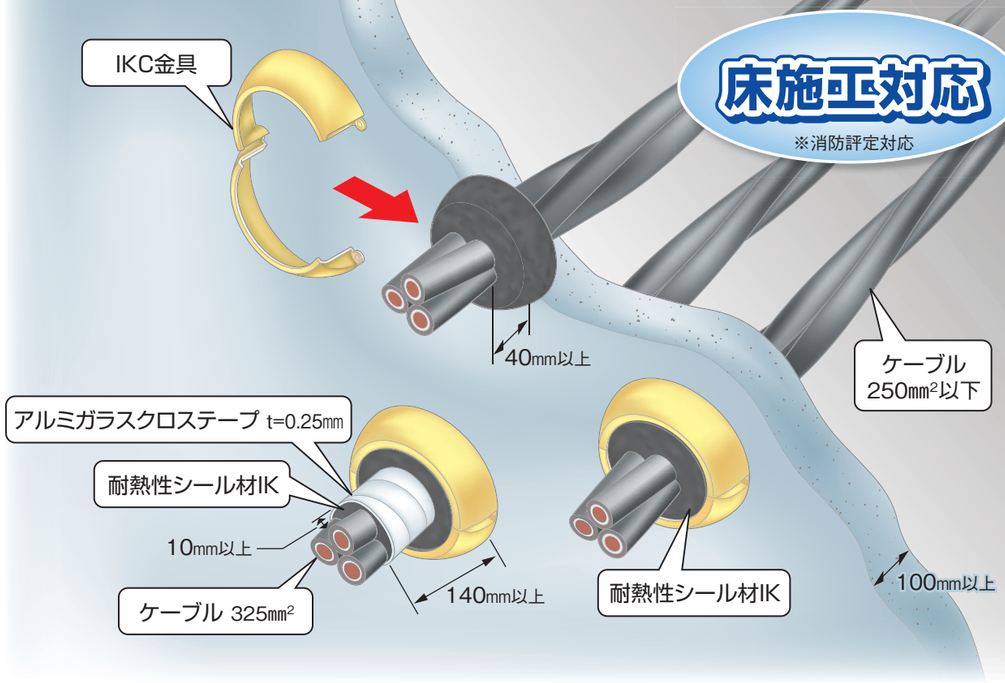
IKC 耐火キャップケーブルタイプ

国土交通大臣認定番号
PS060FL-0722（床:ケーブルサイズ325㎟以下）
PS060WL-0301（壁:ケーブルサイズ250㎟以下）
PS060WL-0448（壁:ケーブルサイズ325㎟）
PS060WL-0310（中空壁[耐火・準耐火60分]・木軸）

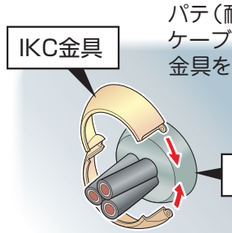
(一財)日本消防設備安全センター評定
KK21-005号（壁）（共住）
KK26-002号（床）

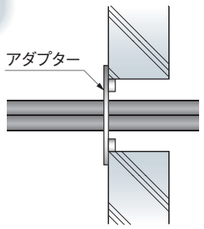
「特定共同住宅の共住区画貫通処理（壁）」や「ケーブルサイズ325㎟の防火区画貫通処理（壁）」にも使用できます。



簡単施工

パテ（耐熱性シール材IK）をケーブルの周りに盛って金具を留めるだけの簡単施工*1

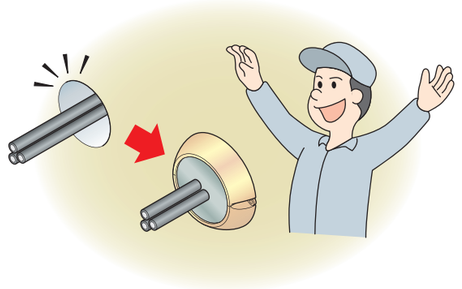




*1…ケーブル1本当たりの導体断面積が250㎟以下の壁および国土交通大臣認定の床施工の場合。特定共同住宅区画貫通を除く。また、ケーブルが付属アダプターの内径より小さい場合は、パテ落下防止のため、アダプターをあらかじめセットする必要があります。

後付施工も可能

パテ方式なので、
後付施工も可能 です。

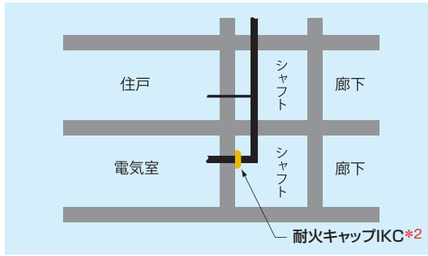


- 耐火キャップのケーブル専用タイプです。
- 耐火キャップケーブルタイプは、耐熱性シール材IKと専用金具を使用する防火区画貫通部措置部材です。

大容量ケーブルの貫通に対応

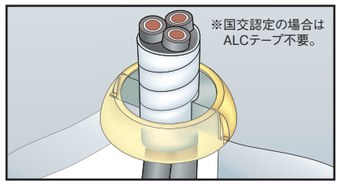
マンションなどの特定共同住宅において、住戸だけでなく電気室とシャフトとの貫通箇所も特定共同住宅区画貫通となるため平成17年消防庁告示第4号の基準に適合した工法で処理する必要があります。

本製品はケーブルサイズ325㎟までの大容量ケーブルの特定共同住宅区画貫通工法として上記消防庁告示第4号の基準に適合し、「(財)日本消防設備安全センター評定」を取得しているため電気室からシャフトへ引き出される幹線ケーブルの貫通にも対応できます。

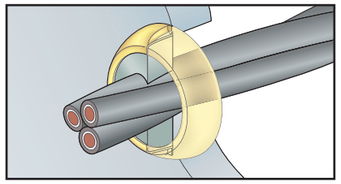


*2…特定共同住宅区画貫通部

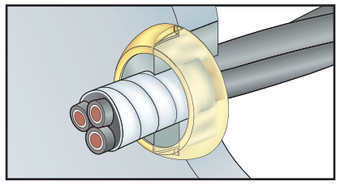
床施工（ケーブルサイズ325㎟以下）



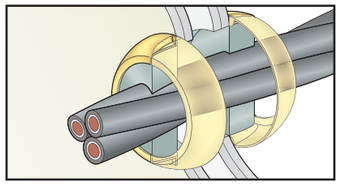
壁施工（ケーブルサイズ250㎟以下）



壁施工（ケーブルサイズ325㎟）



中空壁施工（ケーブルサイズ250㎟以下）



特 長

●国土交通大臣認定取得
建築基準法にて要求されている1時間耐火性能に合格しています。

●消防特定共住区画貫通適合（中空壁を除く）
平成17年消防庁告示第4号の基準に適合し、(一財)日本消防設備安全センター評定を取得しています。

●簡単な施工性
- 施工に熟練を要しないので、どなたでも簡単に施工できます。
- 貫通穴内に挿入する落し込み金具はありません。
- 壁貫通部に対して、片側からの施工で完成します。（中空壁施工を除く）

●工期の短縮
電線管などの前処理が不要のため工期が短縮できます。

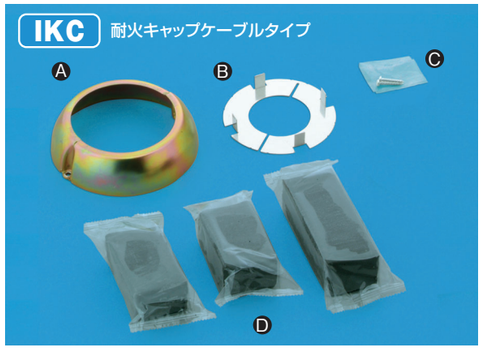
●ノンアスベスト
使用材料にはアスベストは含有していません。

●ケーブル配線後でも施工可能
2分割構造で、配線後でも施工が可能です。

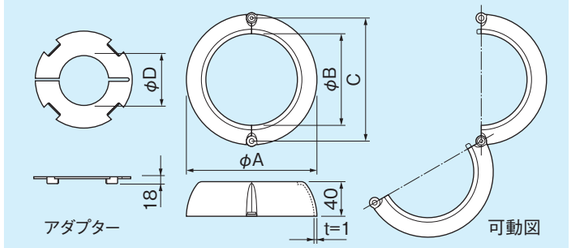
認定範囲 ※詳細は認定書をご確認ください。

認定・評定番号		床			壁				
		PS060FL-0722（床（ALC・コンクリート））		KK26-002号（床（ALC・コンクリート））	PS060WL-0448（壁（ALC・コンクリート））		KK21-005号（壁（ALC・コンクリート））	PS060WL-0301（壁（ALC・コンクリート）） PS060WL-0310（中空壁[耐火・準耐火60分]）	
構造	床・壁厚	100mm以上							
	最大開口径	φ160mm							
		占積率	最大ケーブルサイズ（600V CVT）	最大ケーブルサイズ（600V CVT）	占積率	最大ケーブルサイズ（600V CVT）	最大ケーブルサイズ（600V CVT）	占積率	最大ケーブルサイズ（600V CVT）
型番	IKC-50	43.2%以下	100㎟	100㎟	19.44%以下	38㎟	38㎟	18.35%以下	38㎟
	IKC-75		325㎟	250㎟		100㎟	100㎟		100㎟
	IKC-100			325㎟		250㎟	250㎟		200㎟
	IKC-125				15.82%以下	325㎟	325㎟		250㎟
	IKC-150				11.26%以下				

■ 仕様



寸法図



単位:mm

適合開口径 呼び径(穴径) (mm)	コードNo.	型番	金具寸法 φA (mm)	φB (mm)	C (mm)	φD (mm)	耐熱性シール材 数量(個) IK-2 (約300g)	IK-3 (約450g)	取扱説明書 (枚)	標準単価	梱包
50(φ 55)以下	C 63740	**IKC-50**	98.5	52	88	—	0	1	1	**¥ 3,100**	12
75(φ 85)以下	C 63741	**IKC-75**	127	82	118	45	1	1	1	**¥ 5,200**	8
100(φ110)以下	C 63742	**IKC-100**	152	107	143	65	2	1	1	**¥ 6,700**	8
125(φ135)以下	C 63743	**IKC-125**	178	133	169	85	0	3	1	**¥ 7,200**	8
150(φ160)以下	C 63744	**IKC-150**	203	158	194	105	0	4	1	**¥11,600**	4

※ 特定共住区画貫通(床)の場合は1箇所に付き、別売のIKパテ(P.50)が1個追加で必要になります。

■ セット明細

記号	部品名	材質	数量
A	耐火キャップケーブルタイプ金具	SPCE	1
B	アダプター 注)IKC-50にアダプターはありません。	SGCC	1
C	コンクリートタッピングビスM4×25L	ユニクロ処理鉄材	2
D	耐熱性シール材IK	耐熱シール	—
—	取扱説明書	—	1

■ 収納ケーブル系統目安表 (PS060WL-0301・0310工法の場合)

■ 600V CVケーブル(本数)

型番＼サイズ	公称断面積(mm²) 8	14	22	38	60	100	150	200	250
IKC-50	→	→	→	3	—	—	—	—	—
IKC-75	→	→	→	→	→	3	—	—	—
IKC-100	→	→	→	→	→	→	→	3	—
IKC-125	→	→	→	→	→	→	→	→	4
IKC-150	→	→	→	→	→	→	→	→	4

■ 600V CVTケーブル(本数)

型番＼サイズ	公称断面積(mm²) 8	14	22	38	60	100	150	200	250
IKC-50	→	→	→	1	—	—	—	—	—
IKC-75	→	→	→	→	→	1	—	—	—
IKC-100	→	→	→	→	→	→	→	1	—
IKC-125	→	→	→	→	→	→	→	→	1
IKC-150	→	→	→	→	→	→	→	→	1

※ 上記目安表の数値は、設定上の占積率だけでなく実施工も考慮したものです。
表中の数値よりも多く貫通させたい場合は、認定上の占積率および施工条件を考慮して選定してください。
※ 各ケーブルは導体の構成が円形圧縮形状にて、算出しております。(8mm²の場合は、素線数／素線径にて算出)
※ 各ケーブルは、各型番の最大開口にて区画が貫通された場合を想定して、算出した値です。

ご注意

1.施工は内線規程に基づいて行なってください。
2.ご使用の際は、同梱されています取扱説明書および認定書・評定書をよくお読みください。
3.ケーブルサイズ選定の際には、認定書に記載の開口穴径、金具最小内径および占積率を共に満たすことをご確認ください。
4.中空壁にご使用の際は、耐火キャップ ケーブルタイプの両側施工(2個使い)を行なってください。
5.アダプターは、アダプター内径以下のケーブルに対して必ずご使用ください。(IKC-50はアダプター不要)
6.作業される場合は、軍手などを着用してください。
7.屋外でご使用の場合は、紫外線、雨水などが当たらないように処置を施してください。
8.特定共同住宅区画貫通およびケーブルサイズ325mm²にご使用の場合は、同梱の耐熱性シール材IK(P.50)が不足しますので追加が必要です。(必要量は次頁をご参照ください。)また、ケーブルサイズ325mm²にご使用の場合は、さらにアルミガラスクロステープ(厚さ0.25mm以上)が必要です。別途ご用意願います。

※この施工手順は参考資料です。必ず認定書・評定書および製品同梱の取扱説明書の内容をご確認の上で施工してください。

■ 施工手順 A 防火区画貫通の場合

壁・中空壁 (ケーブル1本当たりの導体断面積が250mm²以下※)
床 (ケーブル1本当たりの導体断面積が325mm²以下)

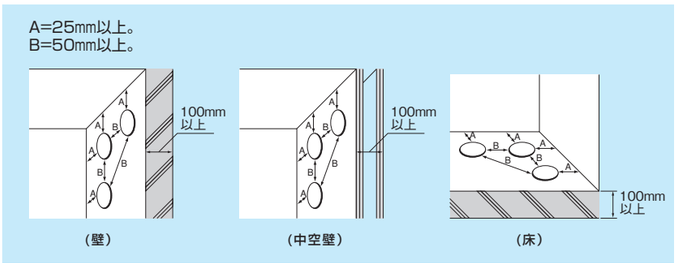
※ケーブル1本当たりの導体断面積が325mm²以下の場合は、B の施工手順を参照してください。

ご注意 中空壁施工の場合は、壁の裏面からも同様に施工してください。

①開口穴を設ける

穴間ピッチを考慮の上、製品サイズに適合した貫通穴を設けてください。

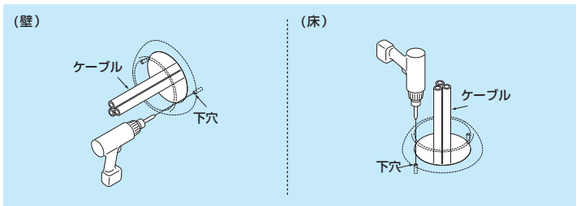
〈注意〉耐火キャップは開閉構造になっているため、作業スペースには余裕を取ってください。
〈注意〉適合開口径は前頁の寸法表をご参照ください。
〈注意〉中空壁の貫通穴にスリーブは必要ありません。



②下穴(金具固定用)を設ける

ケーブルを配線(通線)後、耐火キャップケーブルタイプを一度貫通穴に合わせて、下穴の位置決めをしてください。
金具を取除いた後、φ3.4×25Lの下穴を設けてください。

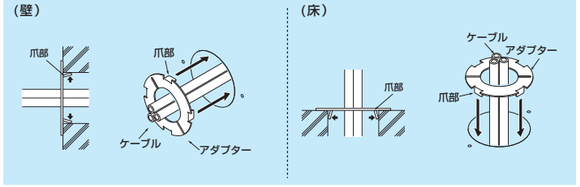
〈注意〉ビス穴ピッチは、前頁の金具寸法をご参照ください。
〈注意〉耐火キャップケーブルタイプは、貫通穴の中心に合わせてください。



③アダプターの取付け

ケーブルがアダプター内径よりも小さい場合は、パテ落下防止のため、必ず貫通穴にアダプターを挿入し、取付けてください。

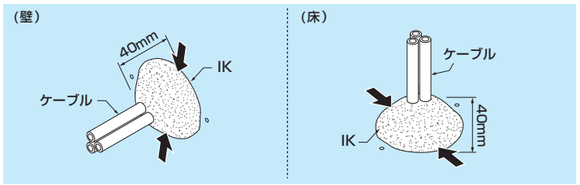
〈注意〉貫通穴内面にアダプターの爪部が当たるように手で押し曲げて固定してください。



④ケーブルへのシール材盛付け

ケーブルに対して、耐熱性シール材IKを、下図のように壁面から高さ40mmになるように、盛付けておきます。

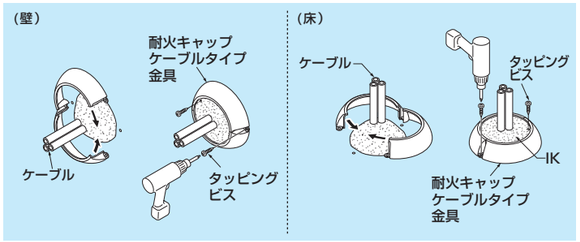
〈注意〉ケーブルの隙間にもIKが密着するように注意して充填してください。



⑤耐火キャップケーブルタイプの取付け

耐火キャップケーブルタイプの金具を開き、ケーブルにはめ込んで、付属のM4コンクリートタッピングビスで取付けてください。

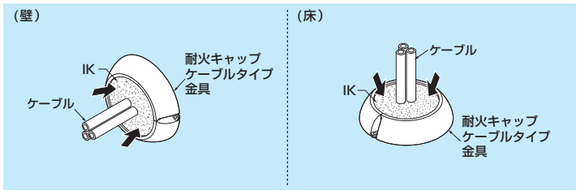
〈注意〉ビス止めを金具のヒンジ側から行なえば(反対側の穴は少し大きいため)取付け易くなります。



⑥仕上げ

耐熱性シール材IKを金具内部に充填し、金具に面一になるように仕上げて完成です。

〈注意〉ケーブル周囲を上から押し過ぎると、IKが裏側にはみ出して落下する恐れがありますので、金具内部へ押し広げる要領で仕上げてください。
〈注意〉壁裏側からも仕上げれば、より確実です。



※この施工手順は参考資料です。必ず認定書・評定書および製品同梱の取扱説明書の内容をご確認の上で施工してください。

■ 施工手順 B 防火区画貫通の場合

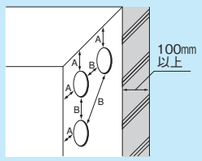
壁（ケーブル1本当たりの導体断面積が325mm²以下）

①開口穴を設ける

穴間ピッチを考慮の上、製品サイズに適合した貫通穴を設けてください。

〈注意〉耐火キャップは開閉構造になっているため、作業スペースには余裕を取ってください。

〈注意〉適合開口径はP.22の寸法表をご参照ください。



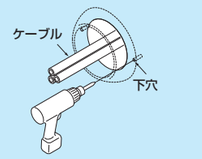
A=25mm以上。
B=50mm以上。

②下穴（金具固定用）を設ける

ケーブルを配線（通線）後、耐火キャップケーブルタイプを一度貫通穴に合わせて、下穴の位置決めをしてください。
金具を取除いた後、φ3.4×25Lの下穴を設けてください。

〈注意〉ビス穴ピッチは、P.22の金具寸法をご参照ください。

〈注意〉耐火キャップケーブルタイプは、貫通穴の中心に合わせてください。

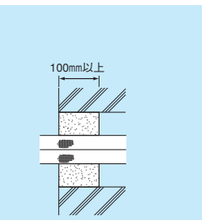


③開口穴内部のパテ埋め処理

開口穴内部のケーブル以外の空間に深さ100mm以上になるよう耐熱性シール材IKを充填してください。

〈注意〉同梱の耐熱性シール材IKでは不足しますので、別途耐熱性シール材IKを購入してください。

〈注意〉充填深さの確認は、裏側からメジャーで測るなどの方法があります。

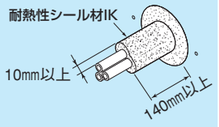


<開口内部の追加耐熱性シール材IK目安>
（最大ケーブルを配線した場合）
50サイズ:1個、 75サイズ:2個、100サイズ:3個、
125サイズ:4個、150サイズ:6個

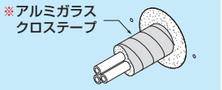
④ケーブルへのシール材盛付け

ケーブルに対して耐熱性シール材IKを右図のように壁面から高さ140mm以上、厚さ10mm以上になるように盛付けておきます。

〈注意〉同梱の耐熱性シール材IKでは不足しますので、別途耐熱性シール材IKを1個購入してください。



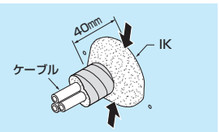
盛りつけた耐熱性シール材IKの周り全体にアルミガラスクロステープを巻きつけます。その際、剥がれないようにするため、必ず先端に1周巻きつけた後、根元までスパイラル状に巻きつけてください。



※アルミガラスクロステープ
（厚さ0.25mm以上）が必要です。
別途ご用意願います。

⑤シール材盛付け

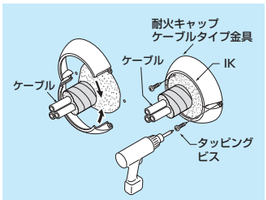
耐熱性シール材IKを右図のように壁面から高さ40mmになるように盛付けておきます。



⑥耐火キャップケーブルタイプの取付け

耐火キャップケーブルタイプの金具を開き、ケーブルにはめ込んで、付属のM4コンクリートタッピングビスで取付けてください。

〈注意〉ビス止めを金具のヒンジ側から行なえば（反対側の穴は少し大きいため）取付け易くなります。

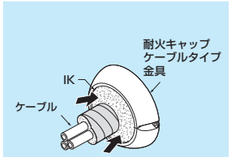


⑦仕上げ

耐熱性シール材IKを金具内部に充填し、金具に面一になるように仕上げて完成です。

〈注意〉ケーブル周囲を上から押し過ぎると、IKが裏側にはみ出して落下する恐れがありますので、金具内部へ押し広げる要領で仕上げてください。

〈注意〉壁裏側からも仕上げれば、より確実です。



※この施工手順は参考資料です。必ず認定書・評定書および製品同梱の取扱説明書の内容をご確認の上で施工してください。

■ 施工手順 C 特定共住区画貫通の場合

壁（ケーブル1本当たりの導体断面積が250mm²以下※）

※ケーブル1本当たりの導体断面積が325mm²以下の場合は、B の施工手順を参照してください。

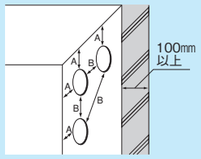
①開口穴を設ける

穴間ピッチを考慮の上、製品サイズに適合した貫通穴を設けてください。

〈注意〉耐火キャップは開閉構造になっているため、作業スペースには余裕を取ってください。

〈注意〉適合開口径はP.22の寸法表をご参照ください。

A=25mm以上。
B=50mm以上。
（ただし、共住区画の中で住戸等と共用部分の貫通以外については、200mm以上）

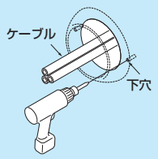


②下穴（金具固定用）を設ける

ケーブルを配線（通線）後、耐火キャップケーブルタイプを一度貫通穴に合わせて、下穴の位置決めをしてください。
金具を取除いた後、φ3.4×25Lの下穴を設けてください。

〈注意〉ビス穴ピッチは、P.22の金具寸法をご参照ください。

〈注意〉耐火キャップケーブルタイプは、貫通穴の中心に合わせてください。

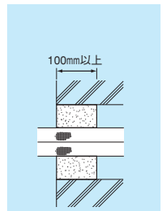


③開口穴内部のパテ埋め処理

開口穴内部のケーブル以外の空間に深さ100mm以上になるよう耐熱性シール材IKを充填してください。

〈注意〉同梱の耐熱性シール材IKでは不足しますので、別途耐熱性シール材IKを購入してください。

〈注意〉充填深さの確認は、裏側からメジャーで測るなどの方法があります。

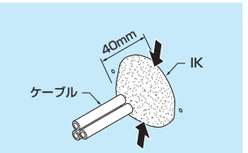


<開口内部の追加耐熱性シール材IK目安>
（最大ケーブルを配線した場合）
50サイズ:1個、 75サイズ:2個、100サイズ:3個、
125サイズ:4個、150サイズ:6個

④ケーブルへのシール材盛付け

ケーブルに対して、耐熱性シール材IKを、下図のように壁面から高さ40mmになるように、盛付けておきます。

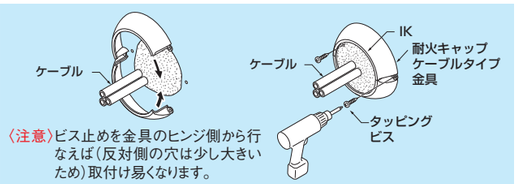
〈注意〉ケーブルの隙間にもIKが密着するように注意して充填してください。



⑤耐火キャップケーブルタイプの取付け

耐火キャップケーブルタイプの金具を開き、ケーブルにはめ込んで、付属のM4コンクリートタッピングビスで取付けてください。

〈注意〉ビス止めを金具のヒンジ側から行なえば（反対側の穴は少し大きいため）取付け易くなります。



⑥仕上げ

耐熱性シール材IKを金具内部に充填し、金具に面一になるように仕上げて完成です。

〈注意〉ケーブル周囲を上から押し過ぎると、IKが裏側にはみ出して落下する恐れがありますので、金具内部へ押し広げる要領で仕上げてください。

〈注意〉壁裏側からも仕上げれば、より確実です。

※この施工手順は参考資料です。必ず認定書・評定書および製品同梱の取扱説明書の内容をご確認の上で施工してください。

■ 施工手順 D 特定共住区画貫通の場合

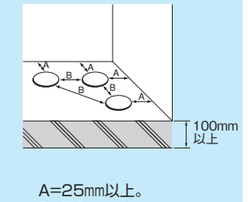
床（ケーブル1本当たりの導体断面積が325mm²以下）

①開口穴を設ける

穴間ピッチを考慮の上、製品サイズに適合した貫通穴を設けてください。

〈注意〉耐火キャップは開閉構造になっているため、作業スペースには余裕を取ってください。

〈注意〉適合開口径はP.22の寸法表をご参照ください。



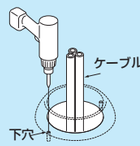
A=25mm以上。
B=50mm以上。
（ただし、共住区画の中で住戸等と共用部分の貫通以外については、200mm以上）

②下穴（金具固定用）を設ける

ケーブルを配線（通線）後、耐火キャップケーブルタイプを一度貫通穴に合わせて、下穴の位置決めをしてください。
金具を取除いた後、φ3.4×25Lの下穴を設けてください。

〈注意〉ビス穴ピッチは、P.22の金具寸法をご参照ください。

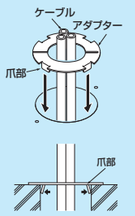
〈注意〉耐火キャップケーブルタイプは、貫通穴の中心に合わせてください。



③アダプターの取付け

ケーブルがアダプター内径よりも小さい場合は、パテ落下防止のため、必ず貫通穴にアダプターを挿入し、取付けてください。

〈注意〉貫通穴内面にアダプターの爪部が当たるように手で押し曲げて固定してください。

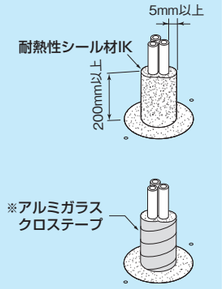


④ケーブルへのシール材盛付け

耐熱性シール材IKを厚さ5mm以上床面から高さ200mm以上になるようにケーブルに盛り付けておきます。

〈注意〉耐熱性シール材IKが厚さ5mm以上となるように確認してください。電力ケーブルは1条（3本）ごとに電線管は各電線管ごとに巻き付けてください。施工しづらい場合は当社までご確認ください。

〈注意〉同梱の耐熱性シール材IKでは不足しますので、別途耐熱性シール材IKを1個購入してください。



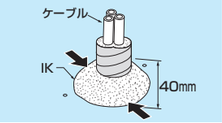
※アルミガラスクロステープ
（厚さ0.25mm以上）が必要です。
別途ご用意願います。

盛りつけた耐熱性シール材IKの周り全体にアルミガラスクロステープを巻きつけます。その際、剥がれないようにするため、必ず先端に1周巻きつけた後、根元までスパイラル状に巻きつけてください。

⑤シール材盛付け

耐熱性シール材IKを右図のように床面から高さ40mmになるように盛付けておきます。

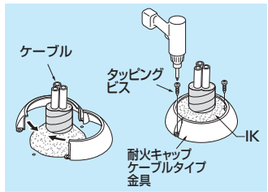
〈注意〉ケーブルのすき間にもIKが密着するように注意して充填してください。



⑥耐火キャップケーブルタイプの取付け

耐火キャップケーブルタイプの金具を開き、ケーブルにはめ込んで、付属のM4コンクリートタッピングビスで取付けてください。

〈注意〉ビス止めを金具のヒンジ側から行なえば（反対側の穴は少し大きいため）取付け易くなります。



⑦仕上げ

耐熱性シール材IKを金具内部に充填し、金具に面一になるように仕上げて完成です。

〈注意〉ケーブル周囲を上から押し過ぎると、IKが裏側にはみ出して落下する恐れがありますので、金具内部へ押し広げる要領で仕上げてください。